

農畜産業の課題対策についての 今期の取組み



株式会社宮防

代表取締役 村社 英秋

1971年創業 防水工事業

2008年：環境に特化した新規事業部を設置

畜産暑熱対策用遮熱塗料『ファームバリア』を開発

2009年：K-RIP入会

入会した年より、毎年K-RIP支援事業を活用

2017年：宮崎県成長期待企業に認定

2018年：地域経済牽引事業計画承認

暑熱課題を抱えているニッチ分野へ対策のご提案

畜産分野・・・畜舎・飼料タンクの温度抑制

生コン分野・・・ミキサー車、鋼製型枠の温度対策



NETIS登録 QS-120011-VE

宮崎大学と8年間共同研究を実施し、エビデンス蓄積

夏場の気温上昇

今夏は全国的に気温上が高く、40℃以上を観測した地点もみられた。
近年では、東北・北海道地区も暑熱対策が必要になってきている。
全酪連 酪農技術研究所(福島県)にてカーフハッチ40基塗装済



仔牛用カーフハッチ施工前

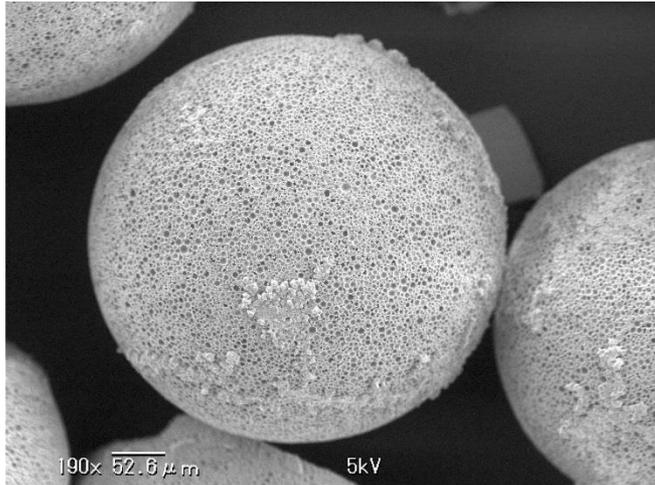


遮熱塗装したカーフハッチ

1. 遮熱塗料の改良
除菌成分のマイクロカプセル化
2. 畜舎内外からの清浄化の検証
超微粒子噴霧器による防疫・悪臭対策
3. ポストハーベスト除菌
強力除菌・飲用適の除菌剤推進

1. 遮熱塗料の改良

マイクロカプセル化の利点



マイクロカプセル表面

・液体(除菌剤)の固体化

→液体を固体化することで、取り扱いが容易になる
→水溶液の除菌剤はマイクロカプセル化することで濃縮される。

・除菌剤の徐放制御

→マイクロカプセルから抗菌剤を徐々に放出することで、除菌剤の効果を長期間持続させると共に、使用量の低減が期待できる

・除菌剤の外部環境からの保護

→除菌剤をマイクロカプセル内に封じ込めることで、外部環境の影響を低減化する

費用対効果の大幅改善

2. 超微粒子噴霧器

超微粒子噴霧器:宮崎の企業と連携し、畜産用に改良を行う計画



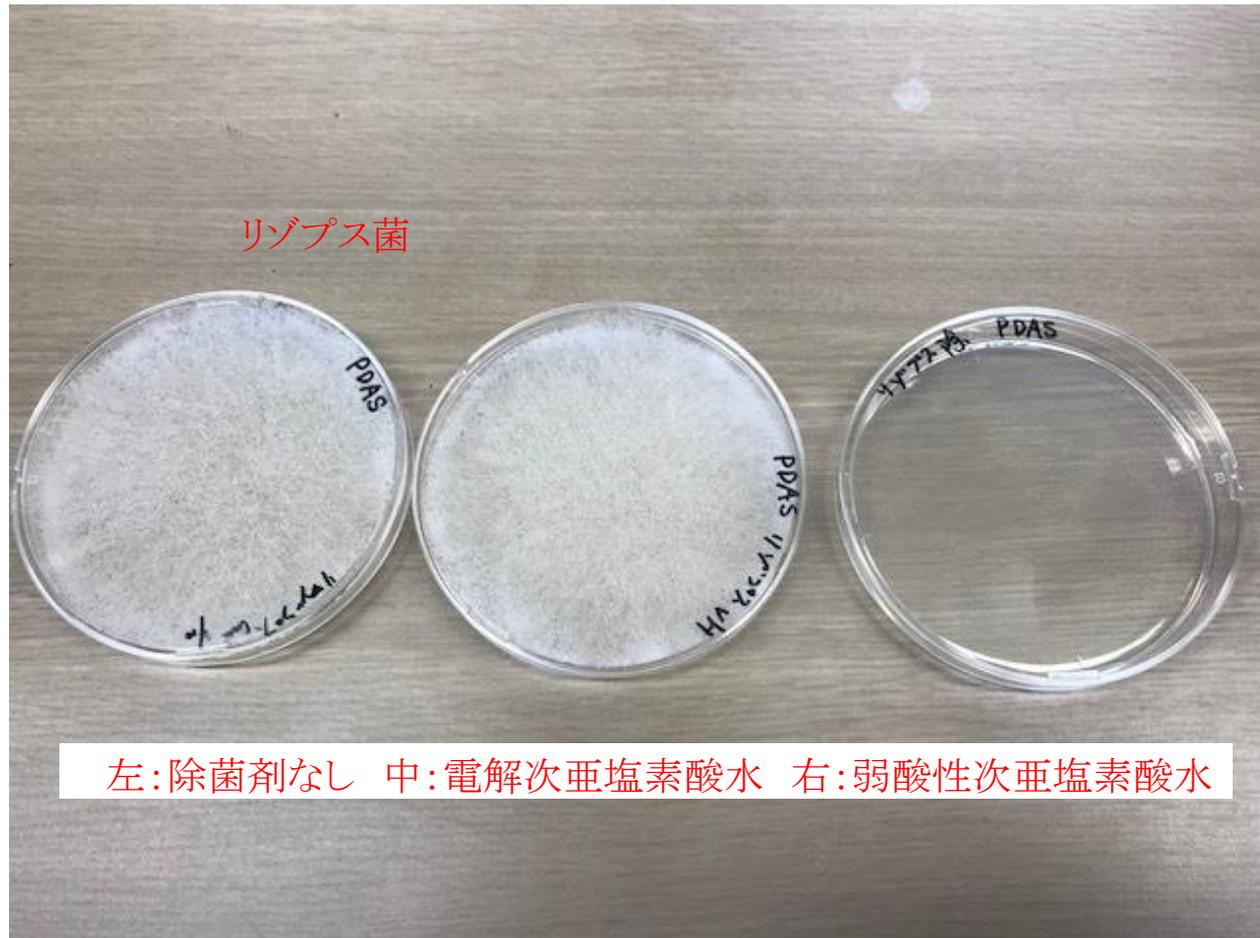
畜産現場での実証試験を実施

- 粒子:0.1~0.5ミクロン
- 除菌可能面積:約1000m²程度
- 除菌液使用量:約1.5ml/H 540ml/月
- 電気代:約20円/月

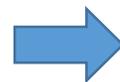
安心・安全な畜産経営

3. 弱酸性次亜塩素酸水の効果

農業分野では根菜類・球根のポストハーベスト用として



廃棄率大幅削減



低価格化を実現